

やっほー

やまびこネットワーク情報誌 VOL. 8 2

発行日 平成27年（2015年）12月25日

編集 地域づくりネットワーク長野県協議会

事務局（長野県企画振興部地域振興課地域企画係内）

電話 026-235-7023（内線3784）

FAX 026-235-7397

E-Mail chiiki@pref.nagano.lg.jp

URL <http://zuku.umic.jp/hp/ynet/>

電子版「やっほー」をよろしくお願いします。

＊カラーで読みやすく、ご紹介しているホームページへのアクセスも簡単です。

＊最新号からバックナンバーまで見られます。

～やまびこネットワークホームページで公開しています。～



やまびこフォーラム2015 in 大北

ファンを創出する地域づくり ～生まれ変わり 愛される商店街へ～を開催！

平成27年11月21日（土）に、大町市 サン・アルプス大町を会場に「やまびこフォーラム2015 in 大北」を開催しました。

◆地域発 元気づくり大賞贈呈式

平成26年度に実施された614事業のうち、魅力あふれる地域の元気づくりに特に貢献したと認められる事業を行った3団体に対して、「地域発 元気づくり大賞」を授与しました。

- ・中川人形保存会（中川村）
- ・特定非営利活動法人自然科学研究所（王滝村）
- ・北アルプス山麓グランフォンド実行委員会（大町市）



～事業の詳細は、県のホームページで紹介しています。ぜひご覧ください！～

<http://www.pref.nagano.lg.jp/shinko/kensei/shichoson/shinko/shienkin/jisshijokyo/zoteh27.html>

◆基調講演「地方だからこそイノベーションが起こせる！

～Yahoo! JAPANの石巻での取り組み～



ヤフー株式会社 復興支援室の須永浩一氏をお迎えし、2011年3月に起きた東日本大震災の被災地支援のための取り組みについてご講演いただきました。

「復興デパートメント」プロジェクトを立ち上げ、全国のお客様と東北のお店をひとつひとつ繋げ、被災地から少しでも多くのお店、商品、そして生産者を紹介する取り組みについてや、全国から約3,500人の出走者が参加した自転車イベント「ツール・ド・東北」を実施し、地元の人たちがボランティアで参加することで、地元商店に立ち寄ってもらい、出会いを一日限りのものでなく、長く続く「縁」となるような取り組みについて紹介がありました。

最後に、地方には、イノベーションが生まれる素地・可能性、もともとそこにある魅力があり、「これからの日本の再生は地方から」というお話がありました。

◆フィールドワーク「大町商店街のいまを歩く・見る・感じる!!」

今回のフォーラムでは、「ファンを創出する地域づくりとは何か？」を実地に探るため、大町商店街をモチーフとした街なか歩きを通して現場を体感してもらうフィールドワーク企画を行いました。

まず最初に、大町市の歴史や文化、まちの成り立ち、見どころなどを知ってもらうためのレクチャー（フィールドワーク・エピローグ）を受け、参加者は一斉に”いざ現場”へ！！参加者には予め付せんを渡し、現場を歩く中で感じた印象、街なかの良いところ・悪いところ、街を元気にする工夫やアイデアを思いつくままに記録していただきました。

当日は、肌寒い、あいにくの曇天で、大町市自慢の北アルプスの雄大な景観は十分に望めませんでした。参加者には、駅から街の中心部へとつながる表通り商店街だけでなく、路地奥にも積極的に入っていただき、もう一つの大町市の魅力（ディープな大町市）を体感していただきました。

街なか歩きに当たっては、参加者が思索する際の目安として、大町市の特徴をとり入れた次の10テーマを設定したほか、街なかの要所に支部メンバーによる案内ガイドを配置し、一見して気付かない街の魅力や情報の提供を行いました。昼食もできるだけ街なかの飲食店を利用してもらうなど、参加者と商店街の人たちとの接点づくりを大切にしました。

＜設定テーマ＞

1. 山岳観光の玄関口としてのまち
2. 外国人観光客に魅力あるまち
3. 子どもと高齢者がふれ合えるまち
4. 「地域らしさ」と「思いやり」のあるまち
5. 地域の資源や歴史文化を感じるまち
6. アートと地域づくり
7. 空き店舗と地域づくり
8. 食を活かした地域づくり
9. 水資源を活かした地域づくり
10. 自転車と地域づくり



【街なか歩きを行う参加者】

フィールドワークの後は、主会場（サン・アルプス大町）に戻り「全体まとめ」を行いました。

主会場には、上記10テーマごとにボードを設置し、参加者が街なか歩きの実体験を通して感じた印象や意見、工夫、アイデアを書いた付せんと貼っていただきました。

以下に、フィールドワークを通して参加者の皆さんから寄せられたコメントの概要をご紹介します！！

（意見概要）

1. 山岳観光の玄関口としてのまち

- 駅から商店街全体を通して「山岳」を感じさせるモチーフ（建物・景観・広告物など）が乏しいと感じる意見が多く、大町市と聞いて抱くイメージと現状の都市景観に大きな乖離がある様子がうかがえる。
- 「山岳」をモチーフとした都市コンセプトの統一が求められる一方、基本的な美観（景観を損なう電柱、手入れされていない公園など）に対する意見も見受けられた。

2. 外国人観光客に魅力あるまち

- 白馬村で増加しているインバウンド観光客を大町に取り込むための取組みを求める意見が多い。また、無料Wi-Fiや多言語表記看板の整備など、基本的な受入れ環境整備が不足していると指摘している。
- フィールドワーク時に行った街中案内人（ガイド）の有効性は一定程度評価されている。
- 商店に対する厳しい意見（何をやっている店かわからない、ホスピタリティが不足、など）もあった。

3. 子どもと高齢者がふれ合えるまち

- 子どもと高齢者が交流したり、つながる空間・施設、取組が少ないと感じる意見が多い。
- 障がい者、子ども、高齢者が街歩きしやすい環境整備に対する意識の乏しさ（段差・歩道のでこぼこなど）を指摘する声もあった。

4. 「地域らしさ」と「思いやり」のあるまち

- 街中歩きで接した商店関係者のもてなしを高く評価する意見が見られた。この背景として、参加者と商店関係者をつなぐガイドの働きが一定程度貢献していると考えられ、街中ガイドが商店街に対する親しみを醸成する有効な手段である様子がうかがえる。
- 街中図書館のコンセプトは評価されたが、運用のより一層の工夫が求められている。

5. 地域の資源や歴史文化を感じるまち

- 古い建物・蔵やレトロ感を好感する意見がある一方、これらの地域資源が十分活かされていない、との意見があった。蔵の有効活用（オープンスペース、カフェ、飲食店など）や神社とのコラボを提案する意見も見受けられた。
- 景観の観点から、歴史的な建造物・蔵とアーケードの関係（存否）に一石を投じる意見もあった。

6. アートと地域づくり

- アートを取り入れた様々な活動は高い評価を受けた。一過性でない将来を見据えたアート展開が期待される。
- アート作家や芸術家による空き店舗の積極活用や、飲食店と芸術作品のコラボなど、芸術活動を前面に押し出した街づくりを推奨する意見があった。

7. 空き店舗と地域づくり

- シャッターを下ろした数多くの店舗が、街全体に暗い印象を与えていることがわかる。
- 空き店舗の創業支援利用や地元高校生への解放、シャッターを活用した工夫（子ども・芸術家によるペイント）など、現状を活かした建設的な意見も見受けられた。



【全体まとめの風景】

8. 食を活かした地域づくり

- 黒部ダムカレーの統一コンセプト展開や特徴ある建築物での食事などが高い評価を受けた。
- 一方で、大町市らしい食べ物（ジビエをイメージする参加者あり）や土産品が少なく、商品開発を促す意見もあったほか、食に関する情報発信不足を指摘する声もあった。

9. 水資源を活用した地域づくり

- 街中の水の存在（軒下を流れる水、水の飲み比べなど）は参加者の好感度が高かった。男清水・女清水の由来に対する参加者の関心は高く、観光資源として利・活用しうる可能性を感じさせる。
- 水に関する情報（飲料可？ 男清水・女清水とは？ など）の露出度、水路を覆う蓋などに問題提起があった。



【コメントをボードに貼る】

10. 自転車と地域づくり

- みどりの自転車（無料貸し出し自転車）の運用改善を求める意見が多かった。（もっとおしゃれに、台数を多く、など）。
- グリーンシーズンにおける自転車活用を求める声があった。

（参考）その他の意見

- 老朽化したアーケードに対する厳しい意見が目立った。せっかくの歴史的建造物や北アルプスの景観を阻害している、との意見もあった。
- 商店街全体の統一コンセプトのあり方や商店街全体の雰囲気づくりなどに対する指摘も多い。

（全体を通して）

参加者の皆さんからのコメントは、大町商店街の関係者や大町で地域づくりに携わる多くの人たちにとって、普段気付かない大町の魅力や地域資源の存在に目を向けさせるきっかけを与えてくださった一方で、改善すべき事柄の多さにも気付かされるものでした。県内各地で地域づくりを積極的に行っている参加者の皆さんから与えられたこの貴重な経験が、大北地域の今後の地域づくりに活かされることを期待しています。

また、今回参加された皆さんにとって、大町でのフィールドワーク体験が、県内各地で行われる今後の地域づくりに向けた取組みの刺激に、僅かながらでもつながるものになったとすれば、大北支部メンバー一同の幸いです。

◆交流会～「大北地域元気づくり優良事例表彰（北安曇地方事務所長表彰）」 「地域食材を使ったおもてなし料理」

■大北地域元気づくり優良事例表彰（北安曇地方事務所長表彰）

フォーラム終了後は、大北地域で平成26年度に実施された地域発元気づくり支援金事業の中から、優良事例に選定された5団体を顕彰する「北安曇地方事務所長表彰」が執り行われました。

いずれの団体の事業も、大北地域の特長を活かした知恵と工夫を凝らした興味深い取組が展開されており、大北地域選定委員会でも高く評価されました。

以下、受賞団体をご紹介します！！（取組の詳細は「平成27年度地域づくりハンドブック」をご参照ください）

<受賞団体> 順不同

- 北アルプス山麓グランfond実行委員会
（地域の特性を活かした自転車イベント立ち上げ事業）
※地域発元気づくり大賞も同時受賞！！
- 一般社団法人縁家（塩の道コミュニティエリア再生事業）
- 白馬サンサン会（食用ほおずきによる地域特産品づくり事業）
- 白馬乗鞍ホテルの会（ホテルの郷づくり事業）
- 大町市定住促進協働会議
（恋人の聖地を活かした地域の元気づくり事業）



【北安曇地方事務所所長表彰】

（交流会）

地域発元気づくり支援金所長表彰が終了した後は、交流会を開催し、参加者同士の交流を深めました。

会場には、大北管内5市町村の地域食材や飲み物を中心に、取り揃えた料理をビュッフェスタイルで提供し、特色ある食材・お酒などを囲んで談笑する賑やかな交流会になりました。

参考までに、当日提供したメニューをご紹介します！！

<Menu>

- 蕎麦の実タブリ、南瓜サラダ（大北地域）
- オードブル（猪のロースト、蒸し鶏、スパニッシュオムレツ）
- 信州サーモン刺身（大町市）
- 田鯉のすずめ焼き（下伊那郡松川村）
- 鹿・猪を使ったカレー（大北地域）
- 白馬の紫米とあきたこまち（大北地域）
- そばおやき ちゃのこ（北安曇郡小谷村）
- 八坂の灰焼きおやき（大町市）
- 大町黒豚まん、辛子味噌豚まん（北安曇郡松川村）
- 漬物各種（コリンキー・エリンギ粕漬、小谷漬、紅梅漬など）
- 食用ほおずき（北安曇郡白馬村）
- バイトサイズアップル（大町市）
- 日本酒（白馬錦、金蘭黒部、北安大国、大雪溪、小谷錦など）
- ワイン（大町シャルドネ、ブルミエ ソービニオンブランなど）
- ハサイダー（大町市）、雪どけサイダー（北安曇郡小谷村）
- 白馬アルプスプレミアムウォーター（北安曇郡小谷村）



【地域食材を使った料理を楽しむ参加者】

さまざまな料理、お酒を楽しみながら、参加者同士がそれぞれの思いや取組について情報交換できたのではないのでしょうか？ この交流を契機に、県内各地をつなぐ地域づくりネットワークが広がることを期待しています。

地域づくりネットワーク 共同活動支援事業を実施しました。

情報誌“やっほーvol.81”でお知らせした「共同活動支援事業」を実施しました。

- ◆事業名 『モバイル型遠隔医療』と『モバイル型遠隔情報保障』から考える障害児支援の今後
- ◆申請団体 認定特定非営利活動法人長野サマライズ・センター（松本支部）
- ◆共同団体 特定非営利活動法人 e-MADO 病気のこどもの総合ケアネット（松本支部）
- ◆開催月日 平成27年10月20日（火）
- ◆参加者数 16名
- ◆事業概要 e-MADOの持つ『モバイル型遠隔医療』と長野サマライズ・センターの持つ『モバイル型遠隔情報保障システム』に加え、最新の音声認識システムなどの紹介をし、参加者を交えて意見交換を実施

2015年8月6日に長野県より「認定」された認定NPO法人長野サマライズ・センターは、女性の力とICT(情報コミュニケーション技術)を活用して、聞こえに不自由のある方々にパソコン・スマホ・タブレットなどを使って、音声情報を文字に変えて提供する『パソコン文字通訳(要約筆記)』と呼ばれる活動に取り組んでおります。

塩尻市内の任意団体で、Windowsの登場に合わせて、手書きの活動からパソコンを取り入れてから、現在は長野県各地20を超える団体が、全国では200を超える団体がパソコンを取り入れるようになってきました。



さらに、企業や大学との連携で、『iPhone』の登場で「離れた場所から、移動しながらでも支援が受けられるように」と『遠隔支援システム』を社会にご提供できました。その普及に取り組みながら、全国25都道府県にお伺いして、支援の経験やニーズの把握の積み上げに努めています。

主には教育現場における聴覚障害のお子さんの授業支援のあり方を保護者・学校や教育委員会の先生方、そして地域の皆さんとご一緒に考えていく活動に力を入れています。



その中で、「人工内耳装用手術を受ける」「重複の病気のために入院が必要になる」など聴覚障害のお子さんだけでも授業に参加できなくなる期間が少なくないことを知りました。

調べてみると『遠隔授業』というキーワードで、全国各地、さまざまな病気や障害をお持ちの方々のニーズがとても多いことに気付かされました。

さらに『遠隔』という共通のキーワードでは『遠隔診療』も大きな社会課題であることもわかり、NPO法人の基盤強化を図る中で、信州大学病院の中に存在するNPO法人「e-MADO」の活動を知り、さっそく訪問させていただき、事務局長滝沢様とお話する中で、今後は連携した取り組みが必要で、それが可能ではないかと考え、助成金に応募しました。



今回の事業は、本当に入り口でしかありませんし、ICTを活用したシステムがあるからといって、簡単に解決できるような社会課題ではありません。システムをきっかけとして、多種多様な皆さんとの連携ができて、はじめて課題の解決が実現していくのです。

新年度からの多様な協働事業への取り組みを行うことで一つずつステップを上げていきたい。皆様からの情報提供・連携提案・ご寄付や人的ご支援などに期待をお願いして、報告とさせていただきます。 認定NPO法人 長野サマライズ・センター 事務局長 小笠原 恵美子

★★ 参加者の感想 ★★

- （福祉系大学生）提供されるべきサービスがなかなかない、という事例を知ることができたことは、とても貴重な経験になった。
- （子育て支援活動者）聴覚障害者のための『モバイル型遠隔情報保障システム』と子どものための『モバイル型遠隔医療システム』のコラボ企画、子どもの抱える課題の多様性を改めて気付かされ、両者が連携することの意味と大きな可能性があると思った。
- （医療従事者）医療関係者であって、直接自分に関係しない方面の情報は、まったくと言っていいほど入ってこない。こういった民間の取り組みと医療機関が連携することが大切だと思った。
- （教育関係者）長期入院支援はもちろん、年に何回も入退院を繰り返しているといった「グレーゾーンへの支援」も目を向けてほしい。

★★ 事業の成果・今後の展開 ★★

社会保障や福祉・教育に関する国の予算がどんどん減らされている中で、単独のNPOでできることは非常に少ないですが、手を取り合って「必要なお子さんに必要な支援が届く」環境作りを進めていきたい。

「障害児・病児支援のための基金の設立を検討していこう」ということで、2016年の事業として、こどものための基金設立の実績のある愛知県からNPO向けのコンサルを受けながら、基金設立を目指す。また、クラウドファンディング「GIVEONE」を通して『障害児・病児の遠隔授業支援の仕組みづくり事業』として、遠隔授業の必要性の周知と、活動の広報を兼ねた寄付集めにチャレンジをはじめている。
<http://www.giveone.net/cp/PG/CtrlPage.aspx?ctr=pm&pmk=10441>

「地域づくり出合いのひろば」を開催します！

「一緒に活動してくれる仲間を増やしたい」「他の団体と連携や協働をしたい」と考えている会員と、地域づくりに関心のある団体・個人とをつなげる出合いの場となります。

◆日 時 平成28年2月12日(金)午後1時30分～4時

◆場 所 伊那市生涯学習センター(いなっせ)6階ホール

◆主 催 長野県長寿社会開発センター伊那支部、地域づくりネットワーク長野県協議会

◆出店者及び参加者(予定)

地域づくりネットワーク長野県協議会会員、シニア大学の受講生、NPO法人、ボランティア団体、社会福祉協議会、シルバー人材センター、大学、金融機関、行政職員、地域おこし協力隊等

◆内 容(予定)

①出店者がブースを作り、活動などを紹介する模造紙やポスター、写真等を展示し、自分たちの活動をアピールする。

↓

②参加者及び他の会員と自由に話をしながら「つながり」をつくる。

↓

③最後に参加者から今回の交流会で成立した「つながり」や感想などを記入した付箋をブースに貼ってもらい、それをもとに全員で地域づくり活動に関する意見交換を行う。

※出店・参加者の募集については、別途ご案内します。皆さんの参加をお待ちしております！！

地域づくりネットワーク長野県協議会 年会費納入いただきましたか？

会員の皆様に年会費(2,000円)について、納入をお願いしております。

まだ、年会費を納入されていない場合は、大変恐れ入りますが、以下の点に充分にご注意いただき、お早目の納入をお願いいたします！

(注意点)

青色の振込用紙を使用される場合、

○窓口支払いの場合…金額欄に「1,870」と記入してください。

○ATM支払いの場合…金額欄に「1,920」と記入してください。

赤色の振込用紙を使用される場合、

○窓口・ATM支払い共に、金額欄に「2,000」と記入してください。

お手数をおかけいたしますが、何卒ご協力をお願いいたします。